

社団医療法人 養生会 月刊発行新聞

かしま HOT 通信

ホームページ <http://www.kashima.jp>

かしま病院

検索

スマートフォンをご利用の方は、
QRコードを読み取り、アクセスしてください。
PCサイトと同じ内容がご覧頂けます。

3月号 Vol.326

令和2年(2020年)3月1日発行

■編集/かしま病院広報企画室

■発行/社団医療法人養生会

〒917-8143

福島県いわき市鹿島町下藏持字中沢目22-1

tel.0246-58-8010(代) fax.0246-58-8088

ご意見・ご感想は...

上記住所へ郵便、またはE-mailでお送り下さい。

かしま病院広報企画室(江坂 宛)まで

r-esaka@kashima.jp

卷頭特集

1-2

『第95回常磐医学会へ参加しました!』
~演題発表者による参加報告と
常磐医学会の歴史~

3

糖尿病のおはなし
『糖尿病と車などの運転のお話し』
かしま糖尿病サポートチーム

4

コラム ひんがら目(153)
『監視社会と、個人情報保護のバランス』
呼吸器科 部長 山根 喜男

ようこそ家庭医療へ!
リハビリPOST
イベント開催予定のお知らせ
かしま荘通信

かしまふれ愛さくら祭り

第11回 日時 4月12日(日) 10:00~16:00 会場 ショッピングセンター・エブリア北側駐車場

4月12日に予定しておりました
「かしまふれ愛さくら祭り」は
中止となりました。

卷頭特集

第95回常磐医学会へ参加しました!

～演題発表者による参加報告と常磐医学会の歴史～

常磐医学会長賞という過分なるご評価を頂きました。このような賞を受けたのも、認定看護師のチーム活動を理解し、活動しやすい場を提供してくださる理事長を始め看護部長、職員の皆様の協力があつてこそだと思っております。

認定看護師制度とは、特定の看護分野の看護ケアの広がりと質の向上をはかることを目的とした日本看護協会の認定制度であり、役割としては実践・指導・相談に



この度、かしま病院認定看護師チーム活動の発表に対して、最優秀賞である

演題

かしま病院 認定看護師の活動報告
～チーム活動の意義を考える～

看護部 湯田依里

最優秀賞「常磐医学会長賞」の表彰を頂きました!

演題

小葉中心性の粒状影を呈し抗結核剤の内服で改善するも、IGRA陰性、抗酸菌を証明できなかつた2症例

呼吸器内科 山根喜男

不在により、いわき市内の結核病棟が閉鎖され、3年近くなります。咳をして痰から結核菌を出します。患者さんは、菌が出なくなるまで隔離される必要があり、結核病棟のある福島市や郡山市、最近では茨城県の病院で治療を受けます。

肺結核が否定できない人が一般病院に入院を余儀なくされたときは大変です。他の入院患者さんに感染させるおそれがありますので

ります。今回、今までの活動成績が認められ受賞できたことを大変嬉しく思います。今後も院内のみならず、地域包括ケアの実現を支える看々連携の強化を図り、介護関連職種のニーズに応え、活動の幅を更に増やし自施設・地域の看護の質の向上により一層努力の継続をめざしていきたいと思います。

2019年度かしま病院が常磐医学会の運営担当病院として参加しました。発表では、かしま病院から計7名の専門医・医療専門職が演題発表を行いました。今回の卷頭特集は、演題発表者からの参加報告と常磐医学会の歴史について掲載しました。ぜひご覧ください。



呼吸器科医の山根喜男

小葉中心性の粒状影を呈し抗結核剤の内服で改善するも、IGRA陰性、抗酸菌を証明できなかつた2症例

早めに抗結核剤を投与します。32歳の男性は、2週間にわたり咳、黄色痰があり、当科受診時には39℃の発熱、呼吸困難のため酸素投与が必要でした。病院職員の32歳の女性は、インフルエンザが治つた後、黄色痰と咳が続くようになりましたCTを撮ったところ空洞のある肺炎を認め紹介されました。お二人とも結核が否定できず、抗結核剤を早めに投与しました。間もなく治癒されました。が結核の証拠はつかめませんでした。

抗結核剤を飲まないで経過を観察できたかも知れません。



実践家庭医塾の活動報告 ～地域の学び舎としてのあゆみ～

総合診療科 渡邊聰子

昨今、総合診療の重要性が改めて認知されるようになり

2018年4月
ようにな

特に、56%の事例において、死亡3カ月前後に食事に関する問題

今回こうして発表させて頂いた次
死亡原因と最終死亡時状況の検討

というテーマで発表させて頂きました。

会場からは多くのご質問を頂き、私も大変勉強させて頂きました。

今回、演者としての発表経験や、拝聴させて頂いた知識を、今後の日常業務の場に生かしていく

育の変遷を振り返り、諸先生方へ

発表に際し、当院の総合診療教
育の変遷を振り返り、諸先生方へ

メディアスタッフほか多くの
方が紹いできた情熱を垣間見る
ことができました。また、患者さん
の数だけ患者中心の医療の事例
があり、塾での継続的な学びが糧
となると感じました。ご指導いた
だきました皆様、ありがとうございました！

「常磐医学会」ご存じですか？



昭和23年、東北大学医学部矽山医学研究所が、旧常磐炭鉱湯本病院（現いわき湯本病院）に付設され、毎月大学の教授による診療指導や講演が開催された事がきっかけとなり、炭鉱医学集団会が発足したのが始まりです。（当時は、炭鉱での事故や怪我が多かったようです。）

昭和30年に、「常磐医学会」と名称を変え、浜通り医学会として発足。当時は、南は茨城県北部・北は相双地区の病院を含む23病院が参加し、医師が演題発表を行う大きな学会でした。

当初は、年2回月曜日の朝から夕方までの講演でしたが、時代の経過と共に、年1回土曜日の開催となりました。炭鉱医学集団会が発足してから70年余りの歴史を持ついわき市の常磐医学会。現在は、いわき市内の病院・診療所等の医師だけではなく、医療を支える医療専門職等も演題発表や交流が行える多職種参加型の学会に生まれ変わっています。

※常磐医学会の歴史情報はいわき市医師会様の協力を得て、平成13年9月発行の『いわき市医師会報三十周年記念号』14頁記事より抜粋しております。

演題 ス計画とQOL拡大に向けた支援

看護部 南條琴枝



演題 当院の検査室外業務

医療技術部 柴田昭浩



演題 当院におけるCTC導入とその検討（第1報）

医療技術部 江尻航大



介護医療院入所時にはほぼ寝たきりであったA氏が、車椅子に軽介助で移乗できるまでのQOLの拡大がはかれた症例報告を行った。本人は「トイレに行けるようになりたい」家族は「立ち上がりの機会を持たせてほしい」との意向があり、ケアプランを多職種で検討し随時反映させてサービス提供に努めた結果であった。また、「出来る様になってうれしい、楽しい」と精神面の充実もはかれ、多職種との連携や個別性を重視した支援が重要であることを改めて認識することができた。

今回、常磐医学会参加が貴重な体験となり、今後も介護医療院で精一杯取り組んでいきたい。

内視鏡検査や注腸×線検査に代わりうる新しい検査法としてのCTC検査の認知度は高まりつつあり、今回の報告を通じてよりCTC検査の魅力を伝えることが致しました。

今年度よりCTC検査が始まり、その報告題と多くの発表があり、現在行っていることや、その後の展望について真摯に取り組んでいる様子が伝わった。発表時間の5分から殆どの演者が延長して発表を行つたにもかかわらず、ほぼ予定の時間でまとめた座長の手腕は見事であった。学会は事前の準備と、当日の受付や進行等多くの方々のお蔭で運営されている。当日の会場には次々と出席者が増えて椅子を追加して対応していた。

今回の学会は、当院が担当で催したが特に問題なく成功裏に終えたのではと思う。ご協力いただいた皆様、お疲れ様でした！

今後も、前処置方法や撮影方法の検討を継続して行い、また多くの症例を経験することで、CTC検査の発展に貢献できるよう努めできれば幸いです。

CTC検査が始まり、その報告題と多くの発表があり、現在行っていることや、その後の展望について真摯に取り組んでいる様子が伝わった。発表時間の5分から殆どの演者が延長して発表を行つたにもかかわらず、ほぼ予定の時間でまとめた座長の手腕は見事であった。学会は事前の準備と、当日の受付や進行等多くの方々のお蔭で運営されている。当日の会場には次々と出席者が増えて椅子を追加して対応していた。

今回の学会は、当院が担当で催したが特に問題なく成功裏に終えたのではと思う。ご協力いただいた皆様、お疲れ様でした！

今後も、前処置方法や撮影方法の検討を継続して行い、また多くの症例を経験することで、CTC検査の発展に貢献できるよう努めできれば幸いです。

○糖尿病のおはなし

かしま糖尿病サポートチーム

～糖尿病と車などの運転のお話し～

血糖値を下げる薬で低血糖が起きたり、糖尿病の合併症が進んだりすると、車を運転するのが危険なときがあります。どういう状態のかたが運転をしてはいけないのか、どういったところに注意して運転すればよいか、知っておきましょう。

運 転時には寝不足や過労は避けるなどの体調管理が重要です。

また、持病のあるかたの場合は、病気のせいで運転中に不注意が起きるかどうかについても知っておく必要があります。ご自分の健康状態や治療薬を把握し、前もって対策を考えておくことが、安全運転につながります。

低血糖を起こしやすいかたは運転に際して特に注意が必要であり、場合によっては運転をしてはいけない場合があります。運転をされるかたは、ご自身の糖尿病の状況を主治医とよく相談し、運転ができるかどうか、安全運転のために何を注意すればよいか確認しておくことが大切です。

糖尿病の慢性合併症については糖尿病網膜症が進行すると、視力障害や失明につながります。網膜症がなくても年1回の定期検査を行いましょう。もし視力障害が進行した場合には、眼鏡の調整や眼の治療をすることで運転が続けられるかどうか、眼科の先生にご相談ください。

糖尿病神経障害の重いかたでは、手足の感覚の低下や筋力の低下などで、アクセルやブレーキペダルなどの操作



がしにくくなることがあります。このようなかたも、運転について主治医とよく相談しましょう。

糖尿病の薬が運転に影響することもあります。薬の影響により低血糖になる可能性があります。脳は糖をエネルギーとしているため、低血糖が起ると状況判断の能力は明らかに低下することが知られています。普段の生活で、低血糖の振り返りを行い、予防策を考えましょう。低血糖があった場合には、低血糖になった時間帯やその時の食事内容、運動していたかどうかなどの状況を記録しておきましょう。もし、運転中に低血糖になりそうな感覚や低血糖の症状が出たら、すぐにハザードランプを点滅させて路肩など安全な場所に車を停め、低血糖に速やかに対応しましょう。糖分をとてからしばらく休憩をし、症状が確実に改善してから運転を再開するようにしましょう。

ゆとりのある運転計画やしっかりと準備を行い、安全な運転をするようにしましょう。

糖尿病サポートチーム 看護師 早瀬 美和子

監視社会と、個人情報保護のバランス

新型コロナウイルス肺炎が日本でも大騒ぎになっていますが、原因不明の肺炎の拡大をいち早く警告した武漢中心病院の眼科医李文亮先生は、根拠のない噂を拡散させたとして中国政府から処罰されました。2月7日に死亡された今では、中国政府の姿勢に世界から批判の目が向けられています。

中国では、インターネットの監視だけではなく、監視カメラが四方八方に設置され、市民の一挙手一投足が政府に監視されているそうです。監視カメラは精巧になっており、映像から個人が特定されます。もしや、個人の秘密は守れないようです。怖い社会になつたとも言えそうですが、監視カメラも悪い面だけではないようです。

誘拐事件や犯罪などで犯人を捜すのに随所に配置された隠しカメラが役に立っています。交通事故や、おり運転などによる車同士のトラブルを防けるために、ドライブレコーダーを取り付ける人が多くなっていますが、これも監視カメラです。自己の責任は棚に上げて他人を叱責する人から自分を守るために、記録された証拠が有力な武器となります。正直さよりも利益が優先ですが、それでも悪人は漏らさず捕まえます。悪いことをすれば必ず罰金が下されます。誰にも見られないようでも誰かが見ています。

天網恢恢疏而不漏にして漏らさず、と老子に書かれています。天の網は広大で目は粗いですが、それでも悪人は漏らさず捕まえます。現代社会では、嘘も方便。だから、目撃者の証言よりも、カメラ証拠のほうが信用され得力を持ります。

しかし、最近では、個人情報保護が強調されるようになつてきました。個人には肖像権が認められ、他人の姿を勝手に撮影し公開すれば法に問われます。医療の症例報告などで学校名入りで新聞に載りましたが、いつの頃からか個人情報ということで載らなくなりました。

隣人の情報は入りにくくなつてきました。逆に、嘘の情報を流されても嘘が見抜けなくなりました。学歴詐称なども余程でないとばれないのであります。

安倍晋三総理は、桜を見る会の招待者名簿の提出を求められたときに、個人情報保護を理由に隠しました。



森友学園問題、加計学園問題などで、不祥事を暴こうと思っても、調査を拒否できる権力者は、事実を隠蔽します。権力者の横暴を防ぐために情報開示の義務がある苦ですが、権力者が個人情報保護を隠れ蓑にして開示を拒否できるようになりました。やはり放題です。

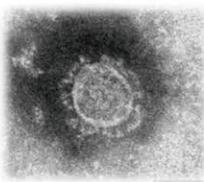
つまり、下々のわれわれの個人情報は、公表すれば法に触れるになりますので公表されませんが、殆んど握られています。インターネットで何かを注文したり、アンケートに答えたりしたら、その情報はどこかでファイルされ知られます。危険人物か否か判断されます。情報は権力者に握られており、都合のよいときに暴かれます。

どうせ誰かに握られているのなら、個人情報が保護されているなどという幻想は捨て去り、お天道様に何でも見られていると悟ります。危険人物か否か判断されます。情報はそれを暴かないで知らないふりをしてくれているのは、他人の思いやりなのですから。

(呼吸器科 部長 山根 嘉男)

ようこそ 家庭医療へ!

~いわきに生きる家庭医療への挑戦~



「雪、台風の次は感染症か!」これが今の私の心の叫びです。フルマラソン3時間切りを目標に隙間時間を見つけて日々鍛錬し挑んだ昨年の第10回いわきサンシャインマラソンは雪のため中止。昨秋の東北みやぎ復興マラソンは東日本台風により中止。「今度こそは」と連日10km以上走破し、万全の準備で迎えた今年の第11回いわきサンシャインマラソンも新型コロナウイルスの襲来により中止が決定し、まさかのフルマラソン3連続おあすけで涙を飲むこととなりました。

ところで、これまでの報道によると、新型コロナウイルスに感染したときの臨床像は、概ね2つのパターンに分けられることが分かってきました。1つ目は、風邪症状が1週間ぐらい続き、そのまま治癒するもので、この経過をとる人が大半のようです。この場合、症状は普通の風邪とほとんど区別がつきませんので、日本国内にも既にある一定数の感染者が潜在しているものと推察されます。2つ目は、1つ目と同様に風邪症状が1週間ぐらい続いた後に肺炎を合併し重症化するものです。高齢者や基礎疾患のある方(ハイリスク者)がこの経過をたどりやすいようです。

第121回

涙を飲んででも守りたいもの…

診療部 石井 敦



これから私たちにできることは、重症化する人を可能な限り少なくするように努めることです。そのために重要なことは以下の①～③です。

① 新型コロナウイルス感染者を増やさない

発熱や風邪症状(鼻水、喉の痛み、咳など)を発症した人は可能な限り外出せず自宅療養し、他者(特にハイリスク者)との接触を回避しましょう。

② ハイリスク者に感染させない

医療機関や介護施設は、ハイリスク者が多く集まる場です。発熱や風邪症状のある方は、極力入りしないでください。

③ ハイリスク者や重症化の兆候がある場合はすみやかな対応を

上記②の目的で、基礎疾患がなく症状が軽い方は、医療機関への受診を極力ひかえていただきたいのですが、逆にハイリスク者は早目の対応が必要です。受診の要否判断の目安として、本誌連載2020年1月号「風邪をひいた時にオススメのセルフチェック」も併せてご参照ください。

かしま病院では、2008年度から家庭医を志す研修医や地域医療実習を行う医学生を受け入れています。このコラムを担当する医師の石井敦は日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医として、研修医・医学生の指導を行っています。



認知症予防 ～コグニサイズについて～

症予防を目的とした取り組みです。コグニション(認知)とエクササイズ(運動)を組み合わせてコグニサイズと言います。

コグニサイズの目的は、認知症の発症を遅らせることです。コグニサイズの課題自体がうまくなることではありません。課題がうまくできるということは、脳への負担が少ないことを意味します。課題に慣れ始めたら、内容を新しいものに変えていくください。「課題を考えること」も脳にとっては良い刺激になります。

今月では、先月号で紹介した認知症予防のコグニサイズについて、詳しく紹介したいと思います。コグニサイズとは、国立長寿医療研究センターが開発した運動と認知課題(計算、しりとりなど)を組み合わせた、認知

例のひとつとして、コグニウォーク(ウォーキング)を紹介します。いつもより大股で、少し早歩きをしながら、しりとり・計算などをするというものです。歩く姿勢は、背筋を伸ばして、腕をしっかりと振り、視線を前に向けながら行います。複数人で行う事もできるので、皆で一緒にコグニサイズをし、試行錯誤しながら楽しんで行っていただくことが良いと思います。

コグニサイズを行うとき、気を付けなければいけないことがあります。「無理はしない」「ストレッチをしてから行う」「水分補給をする」「痛みが起きたら休憩する」。そして一番大事なのが、「少しの時間でも出来るだけ毎日行う」ことです。継続することが、認知症予防には大切なことです。

作業療法士 鳥居詩乃



かしま荘通信

誕生会 - 楽しいティータイム - 2/12(水)



2月は誕生者のお祝いで、ティータイムを設けました。副施設長からの花束贈呈の後は、皆さんでコーヒーを飲みながら、アイスやケーキを召し上がっていただきました。おいしいケーキと楽しいお話を皆さんのお顔もほころんでいたようでした。皆さんと一緒に職員も和やかな時間を過ごすことが出来ました。

イベント開催予定のお知らせ

糖尿病 何でも相談会

3月の糖尿病何でも相談会は、中止となりました。
個別相談は随時受け付けておりますのでお声掛けください。

家庭医療セミナー ～実践家庭医療～

時間 19:00～20:00 · 3月26日(木)
会場 かしま病院コミュニティホール

ゆる体操教室

時間 1回目13:30～14:30
2回目15:00～16:00 · 3月28日(土)
会場 医師住宅201号室

乳がん患者のつどい アイリスの会

時間 14:00～15:30 · 3月18日(水)
会場 かしま病院コミュニティホール

認定看護師による 勉強会

時間 18:00～19:00 · 3月の勉強会は
会場 かしま病院コミュニティホール 中止となります。

興味のある方は、お問い合わせください。